

# 渡辺治建築都市設計事務所

OSAMU WATANABE ARCHITECTS



私たちが初めて設計した多摩川幼稚園は2007年NPO「アジアの子どものための就学を支援する会（ASAP）」を設立し、今までカンボジアに小中高合わせて9校を建ててきた。その学校と貧しい子どもたちの家々を見学、交流した。

## 里山文化への旅

2017年、私たちは、インドネシアに続いてカンボジアを訪ねた。里山文化をたどる旅だった。どちらの国にも、1枚もガラスがなく、天井が高く、入ってくる熱はすぐに上に登っていき、廃棄される仕組みになっていた。ほどよい光と風は解放された窓から入ってきており、教室として完璧な環境を作り出していた。もちろん、空調機も、照明も電化製品もない。水は井戸水か雨水を貯めて使っているの、みごとにインフラに1円もかかっていない。それは住宅においても同じだった。

## 天然の冷房装置へ

高気密高断熱が省エネ上最高の解決のように言われている。しかし、熱力学的に考えれば窓から光が入って来て内部で熱となると、保温性能が高いので、出ていかない。そのような空間を冷房するとなると、エネルギーが膨大にかかる。

入ってきた熱を捨てると冷房不可は飛躍的に下がる。

熱は軽いので上に登る、熱を上から廃棄すれば下には冷気が残る。これが冷房に頼らない冷房システムである。しかし、これだと外気が30度だとすると、少なくとも30度よりもさがらない。

夏の直射を受ける道路面の温度は70度を超えるが、同じ時の公園の樹木の下は30度を切る。その差は40度である。



樹木は1㎡あたり1日に2リットルの水を蒸発させている。その時に、昇華熱が奪われる。例えば、6畳の部屋を冷却する空調の能力は樹木8㎡に相当する。その冷気を熱を捨てながら部屋の中に導き入れると、冷気は下に滞留する。これが、里山住宅の仕組みだった。日本の伝統的な民家は南側に開いて作られる。その南側には庭が作られ樹木が植えられ、池も作られた。夏には季節風が南側から吹くので、庭の冷気を部屋に入れてくれる。

私は、日本の住宅は日差しを入れるために南側を向いているのではなく、季節風とともに冷気を導き入れるから南に開いて作られてきたのではないかと確信している。

私たちが断面を検討する時に



底によって太陽熱がカットされ、室内に冷気が溜まっている様子がわかる。(東京ゆりかご幼稚園 2018.07.09)



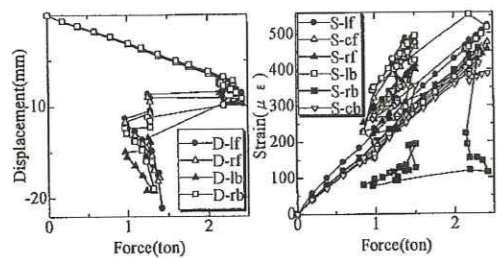
は、前記の状態をなんとか作り出そうとする。うまくいくと、まったく冷房を必要としない建物をつくることができる。

## 高い技術

「技術が高い」とはどういうことか。それまでできなかったことができるようになることを技術が高いと言っているが、土木の世界では同じ性能の例えれば橋を作る時に、1円でも安価で作れる技術が選ばれる。つまり、単価あたりの性能が高い方が、「技術が高い」とみなされる。

それでは、建築において、木造とS造でどれが「単価性能」が高いか比較を試みると、同じ引張強度を得るためには、木材は5〜6万円/㎡でなくてはならない。住宅で流通している構造用の木材はちょうどそれくらいの値段なので、流通している木材を使うのが単価性能が高いので、流通している木材だけで建てられる構造体を計画すればよい。次に加工手間であるが、この5年で、同じ構

造システム、つまりブレースを建物の周囲に放射状に配置して、4方すべてに壁を不要とする構造体を、RC造、S造、木造の3種の素材でそれぞれ建てた。下に示す写真は、各々の構造体ごとの製作風景である。RC造は大部分の作業が現場で発生し、大人数が働いている。S造は高齢化した溶接工がこつこつと作業しており、溶接した箇所は、超音波の検査機で欠損がないかチェックし、場合によっては、工場で仮組みしたのちに、現場に持ち込まれる。それらに対して、木造の場合には、まったく無人で24時間稼働のプレ



(b) 荷重パターン B2

SW スラブの荷重実験データ

カット工場で作られる。今は、職人の数が少なくなり、残業が許されなくなり、東京オリピックに向けて、通常の何倍もの工事が発生しているの、すでに工事費はかつてのパブル経済時よりも高騰している。こういった情勢の中で、予算内かつ工程内で工事を完成させるには、職人不足の影響が少ない構造形式、すなわち木造が合理的である。

## 技術はだれのためのものか

合理的な構造体は、ほかの構造体でできなかった建物を実現させ、または同じ予算でより広い建物をつくることができる。

この恩恵は誰が受けるべきなのか。

保育園は国が指定する「福祉施設」であり、国は自治体の施策に基づき、公共の資金を使って建てるもので、その建物は「公共の福祉」に供するものでなければならぬ。であるから、技術はそのような施設がより高い福祉活動ができるように、より性能が高く、合理的に建てられるために活用されるのが理想的な姿ではないだろう

か。

土木の神様と呼ばれた広井勇は、個人に対する技術の意味を述べていた。「もし工学が唯に人生を煩雑にするのみものならば、何の意味もないことである。これによって数日を要するところを数時間の距離に短縮し、1日の労役を1時間に止め、人をして静かに人生を思惟せしめ、反省せしめ、神に帰る余裕を与えないものであるならば、我らの工学にはまったく意味を見出すことができない。」

※

※「アメリカ人青年教師ウィリアム・ホイラー」鹿島出版

## 日本の木造は進んでいない

プレカット技術、軸組構造の金物工法など、自動化とシステム化が進んでおり、日本の木造技術は進んでいるように見える。しかし、大規模に関しては、やっと7〜8メートルのスパンを合理的に作れるようになった。それに比べ、アメリカでは、150年前にはすでに、大規模な建築や列車が通れる橋を木造でつくれる技術が確立されていたのである。

実際に、大規模の建築を木造でつくるうとすると、住宅用の金物では耐力が足りなく、その都度新しく開発するしかなく、しかも、理論的には成り立つても、製作する精度が確保できずに金物とプレカット材の穴が合わないということがたびたび生じた。

住宅の世界に比べて、中・大規模木造では規格統一もシステム化

もされていないのである。まだまだ伸びる木造

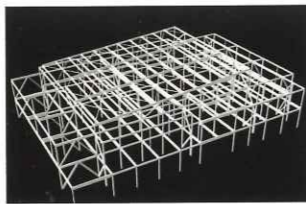
15年前に比べて、部材の規格化と合理化は進んできているものの、大勢のために役立つまでではない。私たちが、大規模建築を木造で5件ほど建ててきて、設備や耐火なども含めて、徐々に体系化させ

てきたが、まだまだである。

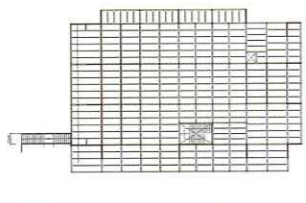
比荷重性能を比較すると木材は鉄やコンクリートに比べてはるかに引張や圧縮耐力が高い。それを私たちがまだまだ引き出し切っておらず、木造の伸びしろはまだまだあり、その開発を進めることが、より公共の福祉の増進に寄与できるのではないかと思っている。

渡辺治

## 木造

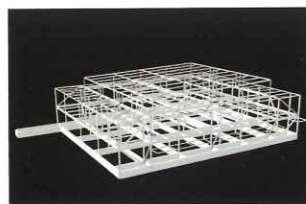


提供：リズムデザイン=モヴ

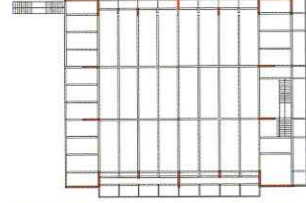


無人のプレカット工法

## S造



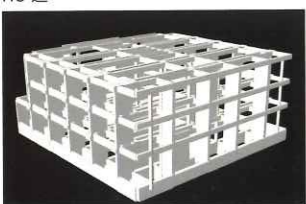
提供：リズムデザイン=モヴ



溶接

超音波試験

## RC造



提供：リズムデザイン=モヴ



コンクリートの新設



統合梁の荷重実験



SW パネルの荷重実験



SW パネルの製作



メガビームと梁とのジョイントの検討

Pico ナーサリ和田堀公園

窓から水の音と鳥の声

杉並区の和田堀公園の中に建てられた。杉並区は待機児解消のために、ここ数年、年間に20以上の保育園を建てている。しかし、都心に近く保育園用地は地価が高く用地不足に悩んでいた。東京都と協議して、東京都の公園の中に運営者を公募して保育園を建てることとした。

敷地の地形は扇型で川に向かって下がっていたので、すべての保育室が川と公園に面するために扇型とし、川と公園からの冷気を導き入れる断面を考えた。



木造で、扇型の形とすると、難易度は急に高くなった。ジョイントの設計にエネルギーが費やされた。ただ、屋根の傾斜が緩いため、屋根の銅板は扇型にせずに済んだのが幸いだった。



保育士不足と言われている今、この保育園が人を募集すると1人の枠でも100人以上が希望する人気の保育園である。

すべての保育園は公園、川側へ向けられた © 永石秀彦

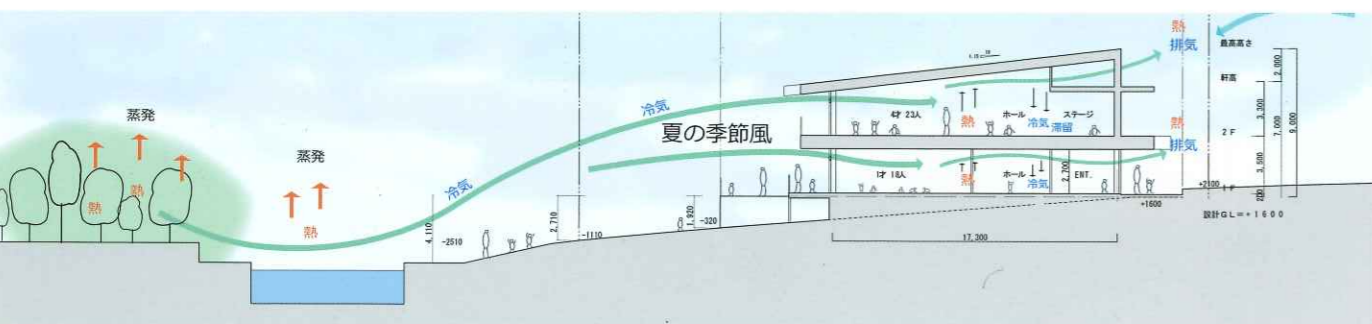


日本はモンスーン気候の国なので、冬は北から、夏は主に南側から風が吹く。敷地の南には、公園の森や川の水が流れていて、ここでは大量の水が蒸発し、昇華熱が奪われ空気が冷やされる。季節風はその冷気を建物の中に運んでくれる。

窓を開けると、冷気とともに、川の水の音と森の鳥の声が入ってくる。それを子守唄に、子どもたちは昼寝する。ここが東京都杉並区であることが信じられない環境である。



風景に透けるダイニング、上部吹き抜けから熱が廃棄される © 永石秀彦



## 至誠第二保育園

区画整理事業で、隣地を取得したのを機に、増改築をおこなった。当初は既存建築を残そうとして計画していたが、最終的には全面建て替えとなった。

建て替えて、園庭は建物の北側となったが、南園庭は夏の直射光が強く、なんらかの方法で覆わねばならなかったため、建物が影を落とすように関係となった。

部テラスに雨が入らないようにしてきたが、費用対効果に薄く、今回のような建築的な庇となった。かつては、大断面集成材が高額で手がでなかったため、小断面の木材で複合梁でスパンを飛ばしていたが、現在では、大断面が流通しており、それを使って大空間を開き取れるようになった。

広い室内空間には大きな遊戯。吹き抜けた保育室、広いミーティングルームとスタッフの休憩室が確保されており徹底的に働きやすい環境が考えられた



ブレースはスチールが使われた



子育てプロムナードの延長上のダイニング



2Fのテラスから「てんがい」の方向を見る



園舎は北側の園庭に開いている。直射が入らないので、カーテンをなくして開放的に保育がおこえる。大きな「てんがい」は、乳児の広場となっている

# 至誠ひの宿保育園



© 永石秀彦



© 永石秀彦

ひとつ屋根の下で  
水の郷日野市での保育園の園舎である。保育室はすべて1階に納めた結果、建築面積が大きくなるので、2階の面積を抑え合理的に容積を囲い取るために、大屋根をかけた。

しかし、投影面積が大きいため、中央部の部屋の排煙換気採光が不足するので、光と風の塔を建物の2箇所、トップライト2箇所と広いハイサイド窓を設け、光を導入するとともに、熱を煙突効果を利用して廃棄するのに機能させた。

温度が上がってきてあちこちの窓を開けると、建物の熱が逃げ、涼しい風が入ってくるのを体感できる。

屋根には、太陽光パネルと天然芝が植えられ、屋根の表情がつけられた



© 永石秀彦

2F ロビーにハイサイドライトから光が入る



イスラム風の塔



風と光の塔の熱廃棄システム

断面図



公立小学校と隣り合っており、柵ごしに交流が生じる



© 永石秀彦

寝る、食べる、保育のスペースが確保されているゼロ歳児室



© 永石秀彦

「風と光の塔」から光が入るダイニング空間



エントランスホール上部の2F ロビー



トップライトからの光で満ちるエントランスホール



© 永石秀彦

「風と光の塔」屋根から1階に光をそそぎ1階の熱を煙突効果で屋根から廃棄する



© 永石秀彦

建物は「水の郷ひの宿」にふさわしい里山の景観を形成するよう意識した



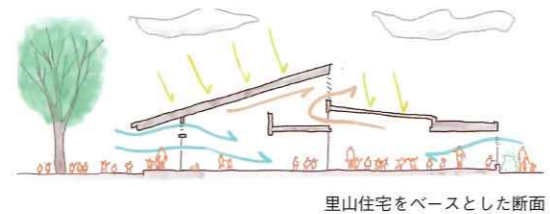
高橋滋孝園長

# 豊田保育園



© 永石秀彦

子どもたちを迎える鳥の羽のような 4m 跳ね出した庇



場所は、湧き水や水路、田園風景、里山文化が色濃く残る東京都日野市、水の郷（みやこ）の高地。それまで30年以上日野市立豊田保育園があった場所に、民営化に伴い新しい園舎に建て替えられた。敷地は丘陵の中腹に位置し、園庭に出ると、眼下に眺望が広がる。南側の園庭に対してL字のプランとし、園庭を囲うようにし、違いの様子が見えるよう考えた。一体感が生まれるよう考えた。園庭に向かって1間半のデッキテラス



© 永石秀彦

は、2間はね出した庇によって、サッシを全開すると内外空間は連続し、半戸外保育空間となる。夏には季節風が下の森から冷気を運んで保育空間を冷やしてくれ、熱気は上の窓から出ていく。この計画では季節風、自然光、眺望、鳥の声、地下の湧水は重要な要素で、それらと建築が互いに融合するよう考えた。敷地の角に井戸を掘り、プールや散水などに活用され、日野の里山文化との連続を意識した。



© 永石秀彦

「えんがわ」の庇の跳ね出しは2間剛性が高い1型のLVL（メガビーム）が使用された

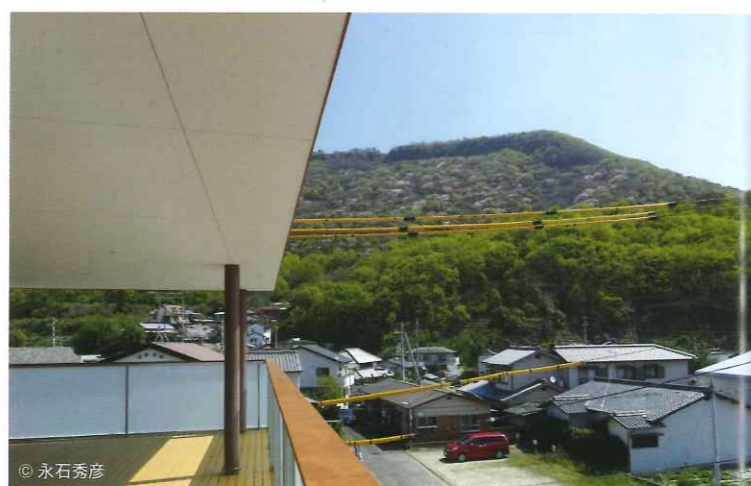
やしま幼稚園



3F ホールのステージ前の障子。ステージは畳が敷かれ大きな茶室を兼ねる

棟上式は園児全員が参加した

© 永石秀彦



© 永石秀彦

© 永石秀彦

四国高松市の戦国時代の戦場となつた屋島に近い場所の認定こども園の保育所棟である。それまでの建物からは屋島の方が望めずその存在がわからないほどであったが、3階のホールと連続し、広いテラスを設けることで、屋島が迫って見えるようになった。

3階は津波の避難のために是非つくりたことだった。当初同じ場所には事務所と大きな茶室があり、3階にはホールのステージを兼ねた大きな茶室をつくった。借景は屋島である。運営者家族の茶や書の腕前は相当なもので、開所式の際も、ステージの奥のスクリーンが開いて茶室が現れ、茶をふるまった。

坪井久也理事長先生は全日本幼稚園連合会の政策部長をつとめ東京に年間50回以上行き来している。母坪井金子先生は俳人だった



坪井久也理事長



坪井洋子園長



坪井清貴先生



© 永石秀彦



調布白菊幼稚園別棟



© 永石秀彦



建て方がおわり、棟上げ式の場面。  
長手方向に梁がなく窓がスラブ面まで到達している様子がわかる

学童など将来の多目的な用途としての空間として計画された。よって部屋間仕切りの位置は可変とし、片廊下式のプランとした。細長い空間の両端の短辺に構造壁を設けることができたので、水平剛性を28mm合板で確保することで、門型ラーメン構造としない合理的な構造形式とできた。根太と床合板のみで成立つ構造であるので、長編方向には梁材はなく、窓はスラブ面まで確保することができた。外断熱とし、柱は構造的な要求ではないがw240mmの梁材を使用することにより空調や棚板のみの家具として利用できるように考慮された。リズムデザインからシミュレートを出している。

使い始めて、様々なサイズのクラスに柔軟に対応し、部屋との間のガラスの間仕切りは、廊下が見学室として機能する。



棟上式 910ピッチの梁は鳥居のようにも見える

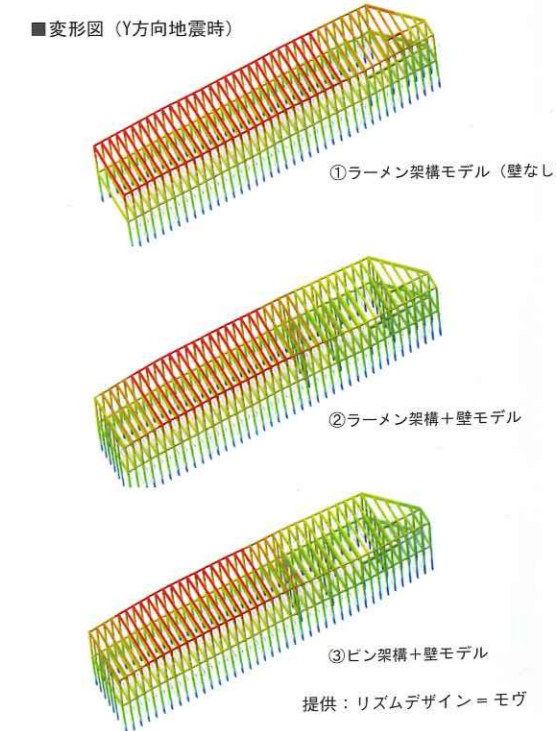


間仕切りをすべてよせた大空間。距離方向の構造壁が見える  
間仕切りは紙ハニカム構造の5mのパネルで両端とレールで吊るされている

© 永石秀彦



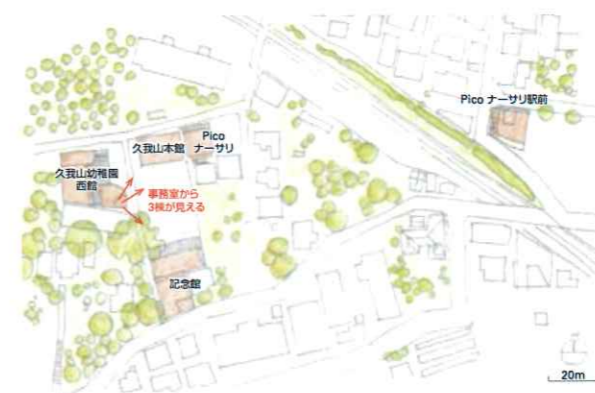
© 永石秀彦



# 久我山幼稚園 西館



# Pico ナーサリ久我山駅前



「Pico ナーサリ久我山駅前」  
京王井の頭線久我山駅のホームから見上げると見える位置に建てられた。周辺のマンションは、音の問題から線路に対してクロスに作る傾向があるが、この保育園ではあえて線路と列車を見下ろせるテラスを設け、そこに保育室を連続させた。乗り物が好きな子どもや父兄が多く、このテラスから飽きずに列車を見ている様子を目にするようになった。屋上には人工芝を敷いた園庭がある。

3つの建物の中央にシンボリックな1/4ドームが設けられた



久我山幼稚園西館の改築である。接する道路に対して背を向けるL字配置だった旧園舎に対して新しい園舎は道に対し開いたL字配置とし、3つある幼稚園を見渡せる位置に事務所を設けた。2階にホールがあつたが、それを踏襲し、園庭がホールの外部ホワイエとも機能するよう、園庭部の3階床レベルに大きな庇を設けた。





# 栄光多摩平中央保育園



© 永石秀彦

保育室同志は保育の応援ができるように見直し確保され行き来が出来る



広い遊戯室を兼ねる場所。ホールとしても機能する。和室の応用

東京都豊田駅から大通りを歩いて10分ほど、U Rと日野市が共同で作成した「多摩平の森A街区公共公益施設等整備構想」に基づいてプロポーザルがおこなわれ、街区の中央に位置する保育園である。計画の途上、U Rと市と各施設の運営者が集い、公共スペースの整備や運営に關しての連携が図られた。

4方から見られる位置であるので、4方にテラスと庇をつくり、ファサードに陰影をつくり顔を形成すると共に、室外機置き場、物干し場、テラス、外部アプローチなどの機能を持たせた。構造は鉄骨構造であるが、放射状に構造ブレースを配置する形式

は、何度か試みてきており、配管経路、空気の流れ、間仕切り方など、その都度リファインされてきており、完成度が高まっている。このように繰り返す同様な構造形式を試みるのは、ほかの施設にも柔軟に転用でき、また支障なく使えるユニバーサルな構造、設備、採光、換気などのシステムを構築したためである。

社会の趨勢から、木造準耐火とすべきところであるが、運営者の希望で鉄骨造となった。鉄骨は木造と比べ、接合部を剛とできるの



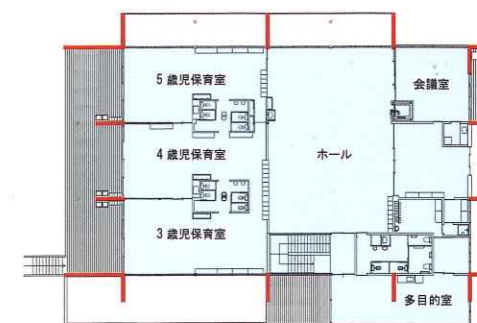
この法人には永年勤続しているベテランのスタッフが多く、園を増やしてより多くの子どもの預かり、地域への貢献をおこないたいと考えている

# 大塚保育園

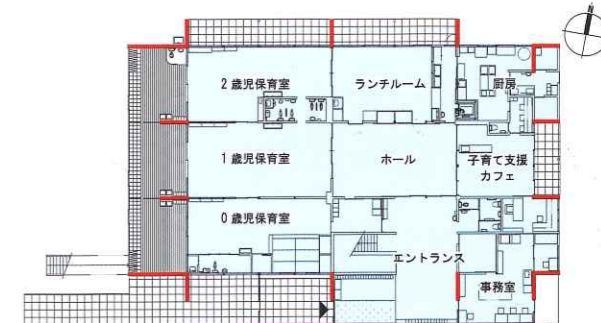
都心の保育園は、安全性の問題からシールドのように閉ざされた施設とならざるを得ない。この保育園の敷地は道路面から3m高く、南側が森、北側にはまちの眺望が開けており、周辺に開いてもプライバシーが守れる稀に見る敷地だった。

この敷地の特徴を活かして、南北西のすべての外壁を開口とし、森と風景にすけるような園舎をつかった。

4方を全開口とするために、構造ブレースを放射状に配置し、その結果周辺に深い庇ができたので、カーテンなしで保育ができる開放性が高い空間となった。



2階平面図



1階平面図 縮尺1/600

赤部がブレースが入っている箇所



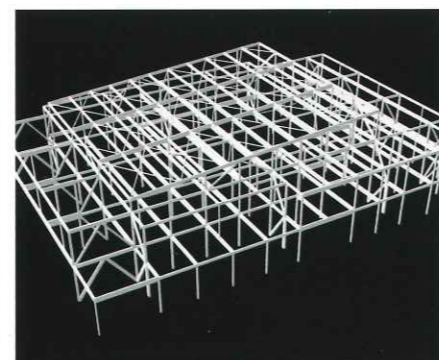
© 永石秀彦

窓の外の風景には妨げるものがない。庇が深くカーテンを要しない開放的な空間



© 永石秀彦

2Fの遊戯室、ねる場所兼ホール空間



木造ブレース構造 (作成: リズムデザイン=モヴ)



金物は常に製作される



南側に森、北側はさえぎるものがない

毎回南側の坂地の森に散歩に出かける



© 永石秀彦

古くからモンテソーリ教育をおこなってきた



床の合板はt28 ラーチ合板

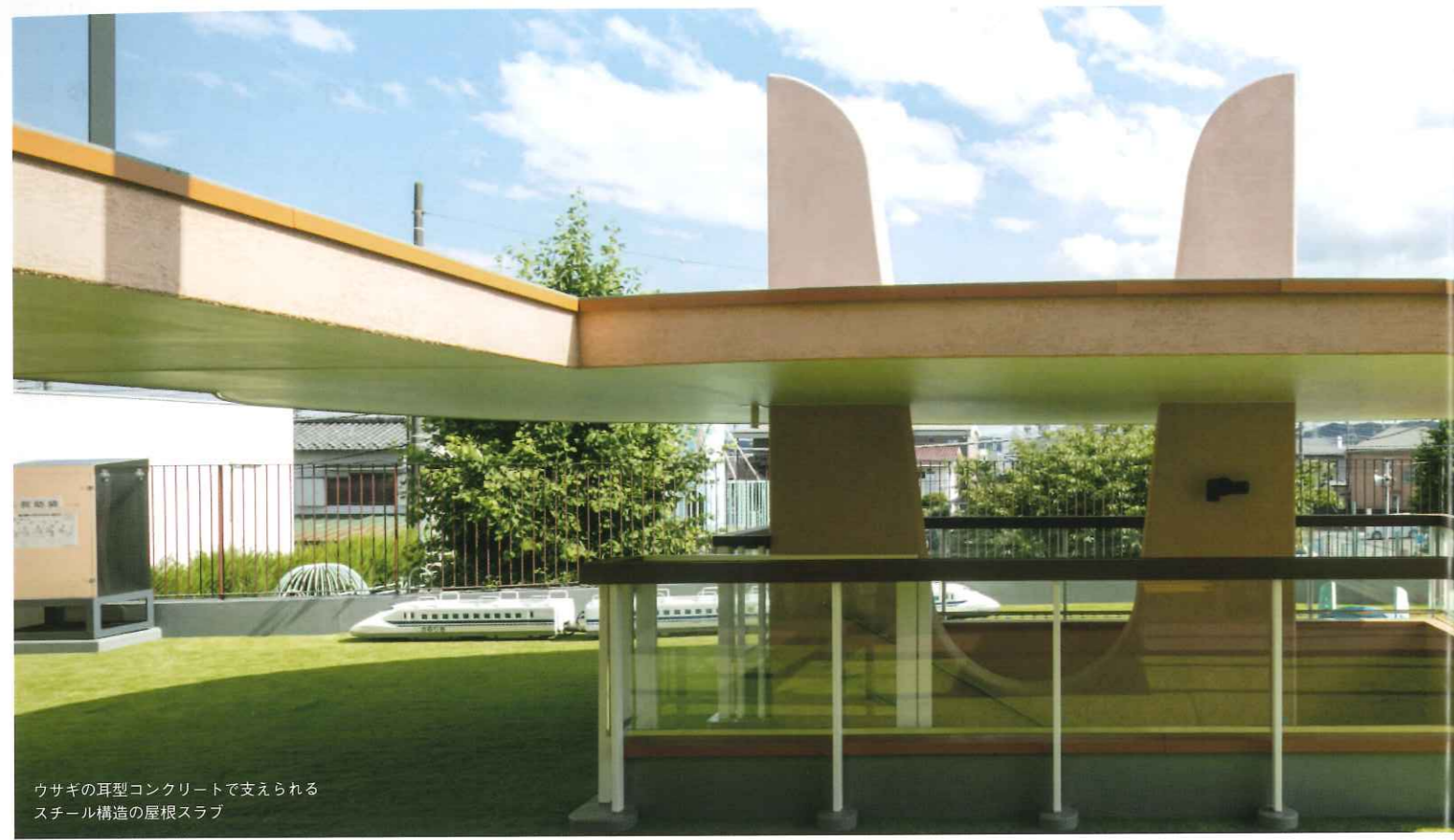


水平ブレースは梁と同サイズの断面が用いられる



16倍壁のブレース

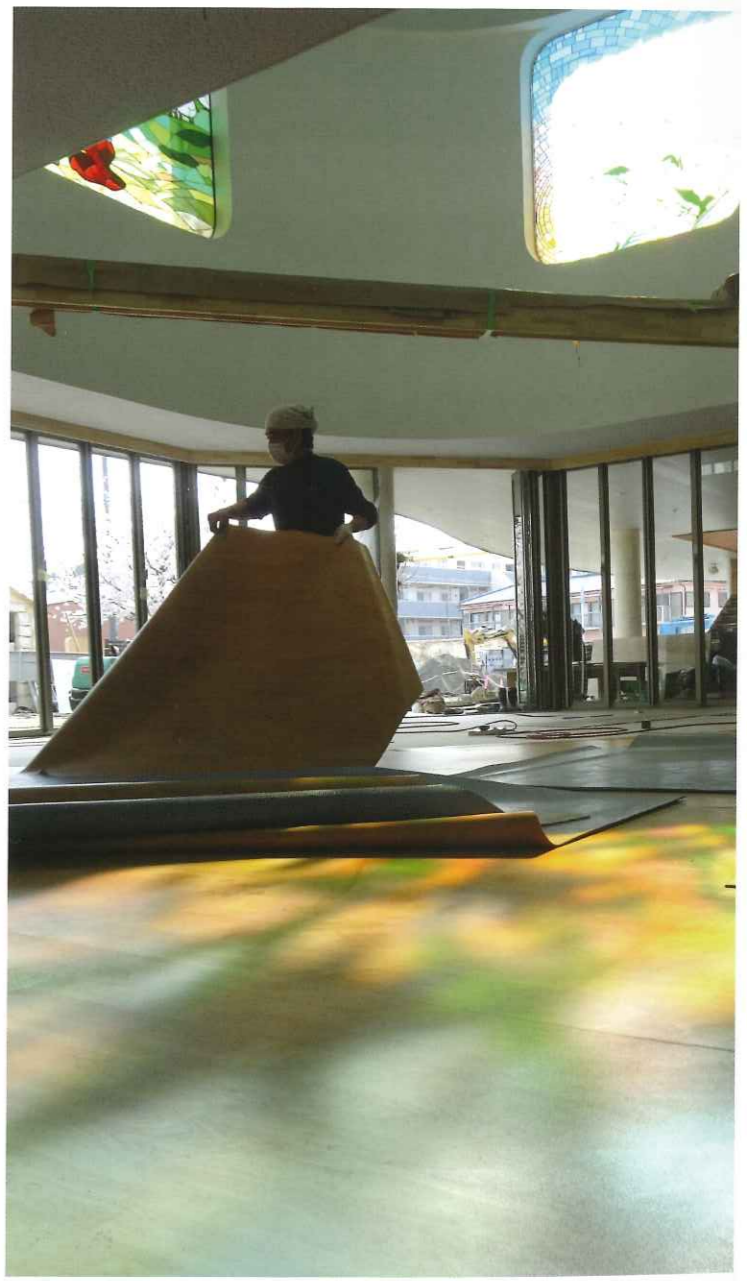
# 認定こども園さゆり幼稚園



ウサギの耳型コンクリートで支えられる  
スチール構造の屋根スラブ

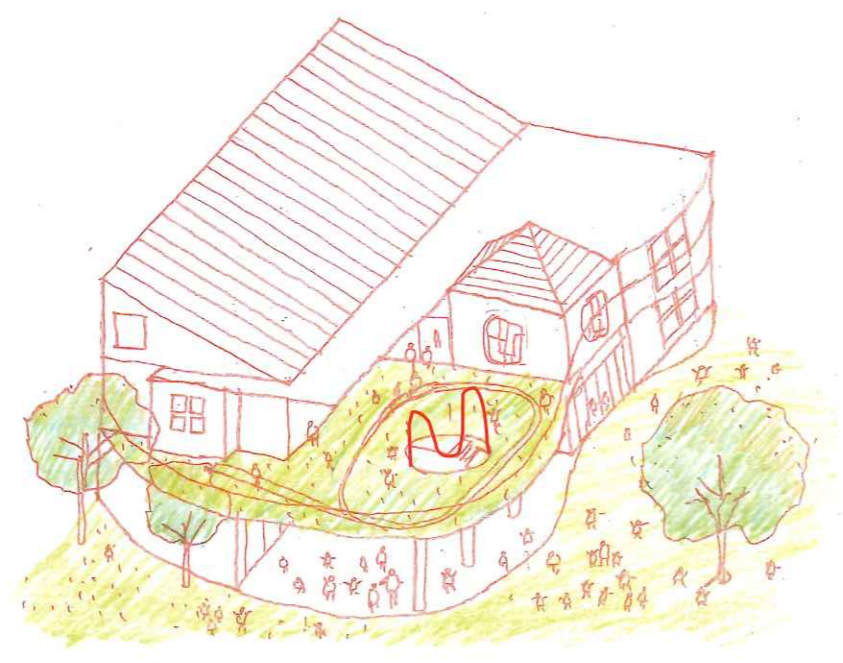


© 永石秀彦



ひろばは運動場、ホールなど多機能に使用される

幼稚園の改築にともない、乳児保育と学童のスペースも確保した。このプロジェクトを推進した西村先生は飯能にあるユネスコスクールに加盟している「自由の森学園」と食育や街づくりの活動をおこなっている。飯能教会の牧師だった創設者の「相手の立場になる心のゆとり、他の人を顧みることのできる人間としての器の広さ」子ども達に伝える教育」を目指している。また、大学生の時に単身マダガスカル島に渡り過ごしたこともあり、仮設園舎の部材は貧困を



プロポーザル時のスケッチ

極めるマダガスカル教育施設建設のために送られた。

4月に内示が出てから、仮設園舎建設 引越し、既存棟の解体、そして新築工事をおこなわねばならなかった。建設業界は空前の建築ラッシュで、鉄骨工場やあらゆる職種の職人が不足しており、鉄骨の建て方が始まったのは1月の18日だった。それから内外装、設備工事はまさに突貫で行われ、4月1日に開設できたのは、先生の熱意が私たちや施工者を動かしたに他ならない。



© 永石秀彦



農作業を教育に取り入れている



設計者の渡辺が子どもたちに建物の構造の実験をおこなって見せている



仮設園舎は、不等辺のT字型に建てられた。屋根材、木材、サッシなどほとんどが解体されマダガスカルへ送られた。

# 多摩川幼稚園保育園棟

多摩川幼稚園は、1994年に初めて手がけた幼稚園でかつ建築で、私たちの原点の幼稚園である。これまで、コンクリート造もしくは鉄骨造で建ててきたが、建築界の情勢や保育棟であることも加味して木造耐火構造とした。

建物は箱型で木造在来十根太構造としており、外部空間が入り込んでおり、外部でありながら、限りなく内部よりの空間となっている。

半戸外の空間が保育上不可欠であることを理解していたが、可働の庇は風に絶えないので固定化することとした。

多摩川幼稚園の設計では、時勢によって変わる教育・保育ニーズに柔軟に対応できる空間を提供してきた。

ファサードは将来的にガラスをはめて、庇下の空間を内部化でき、庇下や周辺の梁にはアンカーボルトが設置されており、各種の遊具や大きなオブジェを空中につくることができる。

およそ25年前、若かった建築家は、「遊びの中ですべてを学ぶ」という言葉を具現化すべく、建物全体を登り、走り、そして滑り降り



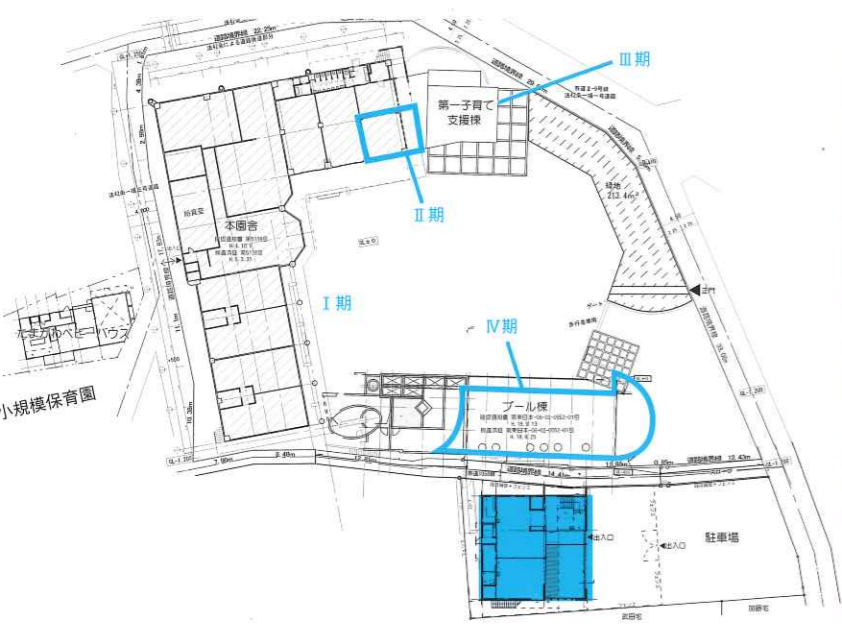
る巨大遊具として設計をおこなった。長い年月を経て、世の中は、あらゆる手段を講じて待機児解消が最優先課題となり、保育園が日本中で急増している。

近年、多摩川幼稚園はそのような社会的要請を受けて、小規模保育園をつくり、幼稚園を認定こども園化するに及び、この建物を建てることとした。



ブレースがファサードの裏表となっている

© 永石秀彦



庇のある半戸外空間、簡単に室内化できるように考えられている

© 永石秀彦

多摩川幼稚園はおよそ25年前から、増改築を繰り返しておこなってきたおり、近年は小規模保育園の設置や、当施設を建てることにより認定こども園化をおこなった。

多摩川幼稚園の理事長は、長く東京都の幼稚園園長による勉強会の中心的な存在で、今はその役割は現園長に受け継がれ、率先して新たな教育・保育メニューに取り組んでいる。



「濱川園長」と「長谷川理事長」



# 景丘の家

渋谷区社会福祉協議会の施設の工事現場  
渋谷区の子供テーブル事業の一環で、敷地内の高低差が8,5mあり下の道路レベルの地下2階まで掘ってバリアフリーの建物とすることになった。

# 小規模保育園



待機児解消のために、特に都心に保育園を建てる敷地がなく高額で、かつ周辺住民に反対される事例もあり、効率よく保育園を増やすのは困難となってきた。  
そのような状況を踏まえて、国では19人以下の小規模保育園をここ数年力を入れていっている。上は栄光ひまわり保育園で、社会福祉法人による運営、下が多摩平1・2スマイルで、学校法人による運営である。

栄光ひまわり保育園

認定こども園 多摩川幼稚園 保育園種  
所在地：東京都あきる野市  
建築主：学校法人 多摩川学園  
設計・監理：渡辺治建築都市設計事務所／渡辺治、坂本紀恵、沖水理恵  
構造設計：リズムデザイン=モヴ／中田琢史、金山美登利  
設備設計：コスモ設計／沼田信夫  
構造・規模：木造、地上2階  
敷地面積：710.82㎡  
建築面積：198.4㎡  
延床面積：345.62㎡  
施工：砂川建設／江口正幸  
竣工：2018年3月

栄光多摩平中央保育園  
所在地：東京都日野市  
建築主：社会福祉法人 栄光会  
設計・監理：渡辺治建築都市設計事務所／渡辺治、川合麻美、沖水理恵、サイン／坂本紀恵  
構造設計：リズムデザイン=モヴ／中田琢史、金山美登利  
設備設計：三高設計／池宮城慎作  
構造・規模：S造、地上2階  
敷地面積：1,800.35㎡  
建築面積：748.41㎡  
延床面積：1,369.17㎡  
施工：砂川建設／横正樹、松井由隆  
竣工：2017年1月

やしま幼稚園  
所在地：香川県高松市  
建築主：学校法人 やしま学園  
設計・監理：渡辺治建築都市設計事務所／渡辺治、山崎智貴、サイン／坂本紀恵  
構造設計：リズムデザイン=モヴ／中田琢史、金山美登利  
設備設計：三高設計／池宮城慎作  
構造・規模：S造、地上3階  
敷地面積：2,646.37㎡  
建築面積：358.28㎡  
延床面積：887.44㎡  
施工：坂井工務店・村井建設／多田健一郎  
竣工：2017年3月

Pico ナーサリ和田堀公園  
所在地：東京都杉並区  
建築主：社会福祉法人 風の森  
設計・監理：渡辺治建築都市設計事務所／渡辺治、川合麻美、星裕一郎、江川玄市、サイン／八田デザイン  
構造設計：OZ.An/尾崎設計室／尾崎友彦  
設備設計：ヤマダマンナリーオフィス／山田浩幸  
構造・規模：木造、地上2階  
敷地面積：1,250.60㎡  
建築面積：494.16㎡  
延床面積：882.14㎡  
施工：砂川建設／加藤秀一郎、河原菜都美  
竣工：2018年3月

たまだいら1・2スマイルハウス内装工事 (小規模保育園)  
所在地：東京都日野市  
建築主：学校法人 宮村学園  
設計・監理：渡辺治建築都市設計事務所／渡辺治、サイン／ヨージ・ハタ・カンパニー  
構造：木造  
1階延床面積：99.25㎡ (工事部分 66.25㎡)  
施工：三恵建設／家子明男  
竣工：2017年3月

大塚保育園  
所在地：東京都八王子市  
建築主：社会福祉法人 のぞみの会  
設計・監理：渡辺治建築都市設計事務所／渡辺治、斉藤絵里、沖水理恵、サイン／坂本紀恵  
構造設計：リズムデザイン=モヴ／中田琢史、斉藤美幸、金山美登利  
設備設計：三高設計／池宮城慎作  
構造・規模：木(軸組)造、地上2階  
敷地面積：2,072.54㎡  
建築面積：822.17㎡  
延床面積：1,393.00㎡  
施工：砂川建設／細岡勲、菅原和正、奥山直樹  
竣工：2015年3月

調布白菊幼稚園 別棟  
所在地：東京都調布市  
建築主：学校法人 東京キッズ学園  
設計・監理：渡辺治建築都市設計事務所／渡辺治、川合麻美、沖水理恵、野仲弘一、サイン／ヨージ・ハタ・カンパニー  
構造設計：リズムデザイン=モヴ／中田琢史、斉藤美幸、金山美登利  
設備設計：三高設計／池宮城慎作  
構造・規模：木(軸組)造、地上2階  
敷地面積：575.80㎡  
建築面積：228.29㎡  
延床面積：441.66㎡  
施工：砂川建設／加藤秀一郎  
竣工：2016年1月

至誠第二保育園  
所在地：東京都日野市  
建築主：社会福祉法人 至誠学舎立川  
設計・監理：渡辺治建築都市設計事務所／渡辺治、川合麻美、大澤裕美、沖水理恵、サイン／坂本紀恵  
構造設計：リズムデザイン=モヴ／中田琢史、金山美登利  
設備設計：三高設計／池宮城慎作  
構造・規模：木造、地上2階  
敷地面積：2,258.00㎡  
建築面積：1,089.80㎡  
延床面積：1,985.21㎡  
施工：砂川建設／加藤秀一郎、山内惇平  
竣工：2018年1月

栄光ひまわり保育園 (小規模保育園)  
所在地：東京都日野市  
建築主：社会福祉法人 栄光会  
設計・監理：渡辺治建築都市設計事務所／渡辺治  
構造：木造  
1階延床面積：99.82㎡  
施工：砂川建設／細岡勲、笹久保誠  
竣工：2017年3月

認定こども園 さゆり幼稚園  
所在地：埼玉県飯能市  
建築主：学校法人 さゆり学園  
設計・監理：渡辺治建築都市設計事務所／渡辺治、山崎智貴、沖水理恵、早川建、サイン／坂本紀恵、八田デザイン  
構造設計：OZ.An/尾崎設計室／尾崎友彦  
設備設計：ヤマダマンナリーオフィス／山田浩幸  
構造・規模：S造、地上2階  
敷地面積：1,721.83㎡  
建築面積：963.15㎡  
延床面積：1,385.68㎡  
施工：佐久間建設、YAZAWA LUMBER  
竣工：2018年3月

Pico ナーサリ久我山駅前  
所在地：東京都杉並区  
建築主：社会福祉法人 風の森  
設計・監理：渡辺治建築都市設計事務所／渡辺治、山崎智貴、川合麻美、サイン／八田デザイン  
構造設計：リズムデザイン=モヴ／中田琢史、金山美登利  
設備設計：三高設計／池宮城慎作  
構造・規模：S造、地上2階  
敷地面積：280.00㎡  
建築面積：217.42㎡  
延床面積：405.94㎡  
施工：砂川建設／沖水良純、松井由隆  
竣工：2016年2月

至誠ひの宿保育園  
所在地：東京都日野市  
建築主：社会福祉法人 至誠学舎立川  
設計・監理：渡辺治建築都市設計事務所／渡辺治、川合麻美、斎藤絵恵、芦田晴香、太田理加、サイン／坂本紀恵  
構造設計：リズムデザイン=モヴ／中田琢史、金山美登利  
設備設計：三高設計／池宮城慎作  
構造・規模：木造、地上2階  
敷地面積：2,464.30㎡  
建築面積：1,200.97㎡  
延床面積：1,667.93㎡  
施工：YAZAWA LUMBER／石田敏昭  
竣工：2018年3月

1959 北海道生まれ  
1985 北海道大学修士過程修了  
1986 ペンシルバニア大学修士課程修了  
1991 東京大学博士過程修了  
1991 マンチェスター大学招待講師  
1992 渡辺治建築都市設計事務所設立  
1996 シビル設計コンサルタント設立



渡辺 治  
Osamu Watanabe

- 2015 都市景観大賞 (国交省大臣賞)
- 2016 キッズデザイン賞 最優秀賞 (内閣総理大臣賞)「東京ゆりかご幼稚園+里山教育」
- 2016 土木学会デザイン賞 奨励賞 「ジョンソントウン」
- 2017 日本建築学会賞 (業績)「ジョンソントウン再生プロジェクト」
- 2017 キッズデザイン賞 優秀賞 (少子化対策担当大臣賞)「JOHNSON TOWN」



多摩平1・2スマイルハウス

© 永石秀彦